

2008年米大統領選挙・予備選挙の動向

1. 予備選挙と大統領選挙

米国の大統領選挙は4年に1度、夏季オリンピックの年の11月に必ず行われる。すなわち、米国大統領の任期は4年、再選は1度だけ認められており長くとも8年に1度は大統領が交代する。また、大統領選挙と同時に議会選挙も行われるため、行政と立法機能が同時に米国民に問われる国家と世界の一大イベントである。

米国は歴史的に共和党と民主党の均衡した2大政党制であり、その他野党や無所属の議員は非常に少数である。つまり、大統領選挙は2大政党の行政権争いでもあり、その各党の代表者（候補者）を党内で決定するのが予備選挙及び党員集会である。

予備選挙は大統領選の年の1月くらいから州ごとに適宜開催される。最終的に夏の党大会で人口にある程度比例した各州の代議員数により集計されることで党の大統領候補が選出されるが、実質的には2月～3月頃にはその大勢が決着。その後は、本選挙に向けた長い選挙戦が展開されることとなる。また、米国の大統領選の特徴は州ごとのWinners take all方式であり、例え接戦でも勝利した候補者とその州の票（議員数に比例）総取りとなることから、党派の支持率が均衡している州や人口の多い大票田に対する戦略が重要となり、最終的には全議員数（総数535）の集計により大統領が決定される。

2. 予備選挙日程（2004年との比較）

今回の予備選挙の特徴として、日程の前倒し傾向が顕著であることが挙げられる。日程的に全ての予備選挙終了前に大勢が決まることが少なくないため、候補者や国民にとって前半戦への関心が高い。特に、伝統的に初戦となる1月3日のアイ

オワ州（党員集会）や1月8日に予定されるニューハンプシャー州（予備選挙）は、全米の注目が集まり、選挙資金の投入額や候補者の来訪回数が格段に多い。また過去にアイオワ州を制した候補者が党の指名を獲得した確率は60%である。選挙日程にはある程度の党の規定があるものの、その注目度や投下資金を目的に州が裁量によって予備選挙日程を前倒しする傾向が04年との比較で見取れる。これにより、カリフォルニアを含む多数の予備選挙が重なる従来からの「スーパーチューズデー」は前回比1ヵ月近く前倒しになり、規模も大きくなったことから今回は「メガ・チューズデー」と呼ばれ2月5日に開催される。よって、今回は早ければ2月半ばには大方の趨勢が判明する可能性が高い。

3. 各党の有力候補者とその趨勢

現在、既に予備選挙に向けた選挙活動が始まっているが、本番まではまだ1年ある長期戦である。前回のワード・ディーン（民）の様に、過去にも選挙前の本命が予備選で破れたケースも少なくなく、現時点の予測やリードは確実なものではない。

その中でも現段階における最有力候補は民主党のヒラリー・クリントンである。元ファーストレディー、NY州上院議員であり、夫ビル支持基盤と豊富な資金力をベースに抜群の知名度と人気でトップをひた走っている。しかし、不支持率の高さやイラク戦争への賛成票、過去の医療保険改革の失敗などの弱点もある。民主党内でヒラリーを追うのは現在唯一のアフリカ系上院議員であるバラク・オバマ。46歳と言う若さに加え、聡明さとカリスマ性を備えるが、政策面での経験不足や人種のハンディは否めない。その他、前回も出馬したジョン・エドワーズ他複数の候補も参戦しているが、ほぼトップ2人の戦いと考えて良いと

思われる。なお、一部で噂されるノーベル平和賞を受賞したアル・ゴア元副大統領の出馬の可能性は低い。

一方共和党は乱戦模様である。現在トップは2001年の米同時多発テロの際に当時のNY市長としてリーダーシップを発揮したルディ・ジュリアーニだが、2回の離婚歴や中絶・同性愛者容認姿勢は保守派層の集票面において共和党の候補としては弱点といえる。ついで、元俳優でレーガン2世との呼び声もあるフレッド・トンプソン。保守本流候補でもあるが、出馬表明が遅れ選挙資金集めには苦戦中である。なお、トンプソンはロビイスト時代にトヨタとつながりを持つなど、親日的な候補ともいえる。その他、ベトナム戦争の英雄ジョン・マケイン、モルモン教徒ながら多額の資金を集めるミット・ロムニーなどにも可能性は残されている。

また、予備選から大統領選挙に目を向けると、イラク戦争に代表される現職ブッシュの政策不人気などにより共和党の苦戦が予想されている。現時点における個別の世論調査においても全共和党候補がどの民主党候補にも勝てない結果となっている。しかしながら過去、共和党候補への不人気が顕著だった1984年のロナルド・レーガンのときの結果はご存知の通りである。

余談だが、2大政党以外からの第3の候補として6月に共和党を離党したマイケル・ブルームバーグ現NY市長が豊富な自己資金をバックに無所属で出馬するとの観測がある。第3候補となれば92年のロス・ペロー以来となるが、現実としては当選の可能性はきわめて低い。

なお、大統領選挙と同時にされる議会選挙においても、06年の選挙における民主党の勝利、ブッシュの不人気、改選議席数の状況などから、大統領選挙同様民主党有利の状況である。

4. 今回の特色

今回の予備選挙・大統領選は1928年以来80年

ぶりに現職の大統領・副大統領が出馬しない選挙となる。これは現職ブッシュが8年の任期を満了、副大統領チェイニーも高齢を理由に出馬を見送ったことが背景だが、これにより保護主義傾向など選挙対策色のあるホワイトハウス政策が行われる可能性は低い。また、スタートラインで有利な現職が出馬しないことで、候補者間の戦いは熾烈となり、選挙資金総額が初めて10億ドルの大台を突破するとの予測もある。また、民主党候補討論にも利用されたYou-tubeを始めとしたネットメディアの影響力の増大も大きな特徴である。

予備選挙、本選挙を通しての最大の論点はイラク問題とテロ対策(外交・安全保障問題)である。次に、国民の関心が高いのが経済・失業問題であるが、現在のところ各候補者間でそれ程際立った政策の差はない。予備選挙はそもそも党員による代表者選びであり、党の特色を前提とした論点で争われるとともに、外交政策や経済政策、医療制度改革や移民政策など一連のメインピックは勿論ながら、中絶・同性愛など候補者のスタンスそのものが党の代表として相応しいかを問われる部分も多い。また、党を超えて国民全体への訴えかけが必要となる本選挙に備えて、現時点で偏った主張を行うことが後々に足枷となる可能性も否めないからである。

以上のことから、イラクの撤退作戦、テロ組織やならず者国家との対峙スタンス、富裕層優遇の特別税制の行方、移民法の改正、社会医療・保険問題などの主要なテーマに対する具体策、特色のある主張は来年の2月~3月頃に各党の候補者が決定後、本格化していくものと考えられる。

世界で唯一の絶対的な超大国ながら、影響力の低下も囁かれるアメリカ。その迷走する巨大な船の舵取りは史上初の女性かアフリカ系か。何れにせよ約1ヵ月後にはその長い長い選挙戦の火蓋が切って落とされる。

(カツオ)